

刊行にあたって

岡本 菜穂子

本号では、「コロニアリズムが奪う心身の健康」と「ジャーナリズム：調査報道・権力監視型報道のネット上の言論空間における可能性と限界」という二つの特集を中心に、多様な視点から現代社会が直面する課題を掘り下げている。

特集 1 では、コロニアリズムが人々の身体的・精神的健康に及ぼす影響を多角的に検討している。歴史的に形成された社会構造の中で、植民地主義がどのように個人やコミュニティの健康を侵食してきたのかを、オーストラリアの先住民社会や、東北地方の歴史的貧困と原発事故などの事例を通して検討をした。また、「痛む身体が問う植民地主義」という討論を通じて、身体的苦痛を抱える人々の声をどのように社会が受け止めるべきかを議論したものを収録している。

特集 2 では、デジタル時代におけるジャーナリズムの役割と限界に焦点を当てている。権力監視の手段としての調査報道がネット上の言論空間でどのように機能しているのか、また、「メディアシニシズム」という現象をどのように捉え、克服していくべきなのかを考察している。ネット環境の変化による言論の多様化が果たして報道の質の向上につながるのか、それとも新たな課題を生み出しているのか、登壇者による深い洞察が示されている。

さらに、報告セクションでは、在留資格のない子どもの高等教育進学や災害時の暴力とサイコロジカル・ファーストエイド（PFA）など、社会的に重要な問題に光を当てている。これらの報告は、私たちがどのようにして脆弱な立場にある人々を支え、社会の公正さを確保していくべきかを問いかけている。

本号が、上智大学グローバル・コンサーン研究所の目指す「グローバル化する社会における貧困や暴力などの諸問題に光を当て、学生や社会の意識を高める」ように、多様な視点を交差させ、新たな議論を生み出す契機となることを願っています。

岡本 菜穂子（おかもと なほこ）

（『グローバル・コンサーン』編集長、上智大学総合人間科学部）